

美術系大学における教職課程の学生の教師観

The Image in Teachers' Qualities of the teacher-training courses Student in a College of Arts

桑 村 佐和子
KUWAMURA Sawako

1. はじめに

科学技術の急速な発達やグローバル化などにより変化の激しい社会にあって、学校教育に対する人々の期待に対応するために、教員に求められる資質能力等もそれに応じたものとなってきている。文部科学省の各審議会でも繰り返し指摘されているが、平成9年の教育職員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」では、「いつの時代にも求められる資質能力」と「今後特に求められる資質能力」とに分けて、時代と共に新たに求められる資質能力を示した。前者は、「教育者としての使命感や人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力等」である。後者の「今後特に求められる資質能力」には「地球的視野に立って行動するための資質能力（地球、国家、人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的資質能力）、変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力（課題探求能力等に関わるもの、人間関係に関わるもの、社会の変化に適応するための知識及び技術）、教員の職務から必然的に求められる資質能力（幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛着、誇り、一体感、教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度）」が示された。さらに、同答申では、画一的な教員像を求めることはせず、基礎的・基本的能力を確保するとともに、「積極的に各人の得意分野づくりや個性の伸長を図ること」の大切さを指摘している。

その後、平成17年の中央教育審議会（以下、中教審）答申「新しい時代の義務教育を創造する」でも、優れた教師の条件として「教職に対する強い情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」が示された。

そのような教員の資質能力は、平成24年の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」で、教職生活全体を通して総合的に高められるべきものとされ、「学び続ける教師像」が確認され、平成27年12月に出された中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」ではさらに、「情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力など」も必要であることが指摘されている。平成27年の中教審答申では、さらにアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTの活用、道徳教育の充実などの新たな課題に対応できることや、変化の激しい時代において、子どもたちが自らの人生を切り開くことができるよう、あるいは、いじめ・不登校などの生徒指導上の課題や貧困・児童虐待などの課題を抱えた家庭への対応、キャリア教育などの新しい課題に対応することが求められている。一人一人の教員が力量を高めるとともに、「『チーム学校』の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要である」としている。

このような状況の中で、教員養成系ではない大学の教職課程履修の学生たちはどのような教師観を作り上げていくのであろうか。本稿では、金沢美術工

芸大学の1つの学年（2013年度入学者）の1年次と4年次での、「教員に求められる資質能力」についての意見を比較することにより、大学という教員養成段階での教師観の変化の有無を明らかにすることを目的とする。「教員に求められる資質能力」は教師に何を求めるかであり、それぞれの教師観が反映されたものであるからである。

学生の意見は「教職論」（1年前期）と「教育実習事後指導」（4年次）の2つの授業を通して得たものである。大学の授業のため、学生は必ずしも配当年次に受講するとは限らないが、ほとんどの学生が大学の設定した年次に受講している。ただし、それぞれ意見の求め方が若干異なっているため、単純に比較することはできない。しかし、どちらも教員の資質能力について意見を求めたものであり、その変化の一端を知ることができるだろう。

2. 1年次での「教員に求められる資質能力」についての意見

「教職論」（1年次前期）では、教員として生徒を指導する、という視点を生徒から教員の側へ移動させて考えさせることを目標として、教員として授業をするということ、教員の校務分掌、教員になるまでの道筋など、教職に関する講義やグループディスカッション等を行っている。学生たちの意見はそれらの授業をある程度受けた後であるため、すでに学校教育について教師の側から少しは考えられるようになり始めている可能性がある。しかしながら、教科教育法（「美術教育法」「工芸教育法」）や教育原理（「教育の本質と目的」）等の授業を受ける前である。調査を実施したのは、2013年7月である。各自、「教員に求められる資質能力」を3つまで上げてもらった。

「教職論」での「教員に求められる資質能力」（受講生の意見を筆者が分類したもの）

- ・社会的な常識がある
時間が守れる、社会的な常識がある、公私を

分けられる人（しゃべり方）

- ・柔軟な思考と対応
あらゆることに柔軟に対応できる、固定的な考えを持たない、相反する価値観を頭から否定しない態度、自分とは違うものを取り込んでみようといえる人、臨機応変に対応できる
- ・論理的な思考力
判断力、論理的にものが考えられる、計画性
- ・努力できる
失敗してもめげないでがんばれる人、勤勉さ、粘り強さ、努力ができる
- ・世渡り上手
筋はぶれないで世渡り上手、賢さ（良くも悪くも）
- ・踏み出す勇気
ポジティブであること、やる気、目標がある、考えすぎないで、踏み出す勇気
- ・責任感
責任感がある、自分なりのルールがあり、善悪の規準がある、いざというとき生徒を守れる
- ・学び続ける姿勢
学び続ける心、自らも学び取ろうという姿勢のもてる、読書をする
- ・他の人に伝える力
言い換えられる能力、聴く力・話す力、伝える力がある、簡単な言葉で、伝えるべきことを伝えられる人
- ・笑顔
笑顔でいることが苦にならない
- ・人を信じる心
- ・自分の意見を持っている
自分の意見を持っている、自分の言動に対する責任感、一本筋が通っている
- ・子どもを叱れる
ちゃんと叱れること、生徒を子ども扱いしない、厳しさと優しさの使いどころを知っている、生徒との距離をつかめる
- ・探求心・好奇心

探求心を持っている、挑戦する心を持っている、いろいろなことに興味を持てること、童心を忘れない

- ・教職に対する使命感
教育者としての使命感、教えることにやりがいを感じられる
- ・多くの経験
沢山の失敗や経験をしている人、他の人に話せる自分の話を持っている、個性、さまざまな経験、
- ・体力
体力がある
- ・連携・交渉能力
外部との連携・交渉能力、妥協点を探れる人
- ・組織の一員として行動する力
組織の一員として行動する力、周囲と協調することができる
- ・生徒が好き
生徒のことを第一に考えられる、生徒に対する愛情、子どもが好き、生徒の成長を喜べる
- ・他の人と話すのが好き
話し好き、ユーモアがある
- ・リーダーシップ
生徒のやる気を引き出す統率力、アイドル性、信頼される人、
- ・強い精神力
正しい人でいようと思える強い心、人を信じる心
- ・サービス精神
多少の自己犠牲はいとわない、サービス精神、献身的に働ける
- ・専門的な知識
専門分野がすごく好き、専門的な知識
- ・客観的・多面的な見方
客観的に自分の授業をみることができる、成績等に関係なく生徒への共感を示せる（平等な姿勢）、誰にでも平等に接することができる、多面的な視点を持っている

- ・状況把握力・洞察力
状況把握力、洞察力、視野が広い、周りが見える、全体を見られる人、観察力
- ・忍耐力・寛容さ
忍耐力がある、寛容さ、短気でない、人を許せる人
- ・長期的視点
遊ばせる余裕のある人、長い目で物事を考えられる人
- ・冷静さ
自分を抑えられる、冷静・沈着、生徒への思い入れが激しくないこと、振り回されない、物事が起きたときに決めつけないで冷静な判断ができる、個人的な感情を持ち出さない、授業の反省を次に生かせる人、個々の問題と全体の進行とのバランスがとれる
- ・メリハリ
生活を楽しむことができる人、メリハリがある人、気持ちを切り替えられる、上手に息抜きできること、時間管理が上手いこと、自分のことをしつつ、生徒をみることができる
- ・行動力
考えて行動できる人、主体的に行動できる
- ・他人に寄り添って考えられる
子どものしたことについて、どうしてそうしたのかを考えられること、気づく力、人のことが考えられる、他人の感情を読み取ることができる、生徒の立場に立つことができる、人に寄り添える、自分中心ではないひと、他人を大切にしようという心意気、他人を人として尊重できる、他人の良いところを見つけられる人、想像力のある人、思いやり

その他：恩着せがましくない、植物を育てている人、自信、コミュニケーション力

「教職論」では、さらに、学生同士で、これらの項目を使ったランキング法によって話し合った後に、

改めて各自で特に優先的に求められる資質として、理由を付して、上位3つまでをあげてもらった。必ずしもこれらの項目にこだわらなくても良いと指示したものの、この項目群から選ぶ学生が多かった。学生たちが1年次時点で特に優先的に求められる資質として、「教職に対する使命感」「学び続ける姿勢」「柔軟な思考力」「社会的常識を持った人」を上げる学生が多く、この時点で、すでに中教審等が指摘しているような教師像をある程度持っていることがわかる。さらに、2015（平成27）年の答申で出てくるような、教員間での協力関係にも言及がある。

3. 4年次での「教員に求められる資質能力」についての意見

約3年間教職課程を履修したことによって、教師観は変化するのだろうか。するとすれば、どのように変化するのだろうか。

4年次での学生たちの意見は、「教育実習事後指導」を通して求めた。「教育実習事後指導」は各自の教育実習の振り返りと共に、改めて教職について考えさせる授業としても設定されている。教職課程履修者にとって、最も大きなインパクトを受ける科目は教育実習であろう。本学では原則として教育実習を4年次前期で行っている。ただし、この時期での実習は必ずしも全員ではなく、夏期休暇から後期にかけての実習の学生もいる。そのような学生にとっても、実習修了者の体験談は貴重なため、一緒に参加させている。したがって、下記の意見の中には教育実習前の学生も含まれている（そのような学生には別途「教育実習事後指導」を実施しているが、ここではデータをとっていない。）。また、1年次での履修者全員が実習に行くわけではなく、ここまで教職課程を履修し続けた学生だけの意見である。

教育実習を経て、学生が教師に求められる資質能力として重視しているものは、グループごとのまとめでは以下の通りである。具体的なテーマとしては「教師として大切にすべきことは何か」であり、各人が意見を出し合った後、グループごとに上位3点を

挙げてもらった。ディスカッションは付箋紙を用いた空間配置法を用いながら行われ、8グループのうち、1グループは文によるまとめには至らなかった。また、本データは授業後に学生の了解を経て得られたものであり、参加学生48人で、2016年7月9日に実施されたものである。

- A. ①個人の接し方と集団の接し方のバランス
②授業の構成力と豊富な知識
③生徒に学びたいと思わせる
- B. ①生徒との関わり合いを大切にする
②教師としての自覚を持つ（大人として、先生として）
③授業をきちんと作り込む
- C. ①生徒を知り、信頼関係を構築する
②生徒への指導の祭、理解しやすいよう説明を工夫する
③個人情報管理
- D. ①公平感
②授業づくり
③状況判断能力
- E. ①自分の良さを生かした見せ方を見つける
②話す技術
③生徒との距離感
- F. ①人間を育てることに対する情熱、やる気
②自己向上心を持つこと。手本を見せる。
③生徒ひとり一人をよく見ること。
- G. ①誰に対してもわかりやすい授業
②想像力を持って、ひとり一人をよく見る。
③生徒と関わることを楽しめる。
- H. (項目としてまとめられなかったが、〈教師〉〈人間〉〈ピエロ〉とのまとまりがある。
①やる気を出させる力、指導案、観察力など、教える力
②体力があることや、生徒とのコミュニケーションを授業内外でとるなど人間性を高めること
③楽しい授業を目指し、実演指導をしたり、生徒を褒めたりするなど、サービス精神を持つこと

これらは学生達がそれぞれの個別の意見を付箋紙を用いながら出し合った上で、分類しながら、それらを参考に話し合っただけで上位3位までも導き出したものである。その後、グループごとに考えた内容を全体に向けて発表する際には、口頭による補足説明があった。授業では、このように全体での振り返りのツールとして用いたものであるが、1年次との比較をしようとする学生たちの意見が見えてこないため、さらに付箋紙に書かれた個別の意見を、全体で分類し直してみると、下記ようになる。

「教育実習事後指導」教師として大切にすべきことは何か(受講生の意見を筆者が分類したもの)〈生徒との関わり〉生徒と信頼関係を築く。

尊敬される先生になる。

- ・生徒のことを信頼する。
生徒のことをネガティブに見ない。生徒の味方になるようにする。一面から見ないで、生徒の良さはどこにあるのかという観点で見る。
- ・生徒を人として対等に接する。
相手も人間である。生徒の立場に立って考えると良い。
- ・個々の生徒に寄り添って考える。
全ての生徒に目を配る。生徒ひとり一人の状況、不安に気づける力。生徒の変化に気づき、行動に移せる力。
- ・生徒の個性を尊重する。
生徒の自主性を大切にする。口を出しすぎない。
- ・長いスパンで生徒を見守る。
根気強く指導をし続ける。生徒は良くも悪くも学習している。将来のことをイメージする。
- ・観察力、想像力を磨く。思い込みを捨てる。
生徒のことをよく見る。観察力を磨く。自分が言ったことが生徒にどう影響するかを考える。生徒のスケジュールなどを把握しておく。生徒を観察して、力量を見極める。

日誌をよく見ること（会話では聞けないことがわかる可能性がある。）

- ・自分から積極的に生徒と触れ合っていく。積極的なコミュニケーション。挨拶をしたり、小さなやりとりから始める。生徒と関わることを楽しむ。授業以外も勝負。
- ・生徒に平等に接する。公平に接する。
- ・教師という立場を自覚して、適切な距離感を保つ
近すぎず遠すぎず。一線を引いて接する。皆に好かれようと思わない。生徒に不安を見せない。
- ・優しさと厳しさを併せ持つ、演技力も必要
演技力が要る。必要があれば、しっかり叱る。叱るときは理由を説明する。役者になる。

〈教師としての専門性〉

- ・生徒のできることでできないことを把握しておく。
やっしまいそうなこと、作業のペースなど。限られた時間で何を伝えられるか。
- ・指導方法にメリハリを付ける。
クラス全体と個別の指導の違い。年齢によって、教え方、話し方、接し方を合わせていく。注目を集める。
- ・何のためにその教科を学ぶのか生徒に説明できる。
面白さを伝える。「美術は良い」という思想を押しつけない。何に興味があるのかを自覚させる。やる気を出させる。学びたいと思わせることができる。
- ・言葉の表現力
指示を明快にする。語彙力を高める。わかりやすく説明する。話を聞かせるプレゼン力。
- ・明るい、楽しい授業やHRづくり
授業が楽しい経験となるにはどうしたら良いのかを考える。好奇心を持てるような教材。できない子を中心に丁寧に教える。できる子は放っておく。ある程度の制約を設ける（自由すぎると制作できない）。一つ

の授業で一つは何か得られるようにする。

- ・誰でもわかりやすい授業。
授業における計画性とキャッチーさ。採点基準を明確にする。実演指導の方法を工夫する。出来る子とできない子の両方との接し方、指導。生徒の立場に立って授業を展開する。
- ・生徒の主体性を尊重した授業運営
誰のための授業か。生徒に気づかせる手助けをする。伝えるのではなく、理解させる事をめざす。
- ・授業の技術
ゆっくりはっきり話す。板書の工夫。
- ・事前準備の必要性

〈教師としての生活〉

- ・生活環境を整える。
体力、気力が必要。
- ・学び続けること、考え続けること。
日々の生活の中で極力学びの機会を増やす。つなげていく。絶えず自分で課題を見つけること。向上心を持ち続けること。
- ・生徒共に学び成長すること
生徒に教えるだけでなく、自身も生徒から学ぶ。生徒に素直に謝ることが出来る。
- ・個人情報管理
- ・教師間での情報共有
指導してくれる先生から沢山のことを学ぶのは大事。非常時における教師の対応

〈総合的な人間力〉

- ・社会人としてのマナーも身につけている。
服装、見た目も大事。報告、連絡、相談。勤勉である。品性良好。生徒の手本となれる。
- ・怖がらずに人と関わる態度
受身にならずに行動すること。大きな心で。動じない、落ち着きある態度。
- ・観察力を身につける。
- ・自分自身を大切にする。
心身の健康。生徒よりも元気であるくらいに。先生というより一人の大人として自然

体で接する。ありのままの自分で。

- ・時代の変化への対応
SNS等今の時代に即した教育が大事。
- ・笑顔
前向きである。安定している。仕事を楽しむ。

4. 考察

先述したように、1年次の調査時点ではすでに「教職論」(1年前期)の授業を3分の2程度受けており、すでに教職について少しは考え始められるようになっているようである。そのため、1年次と4年次を比較すると項目としてはあまり変わりが無いように見える。しかし、理由まで見てみると、4年次での意見の方がより具体的には考えられているようである。これは教職課程を通して、特に教育実習によって得られた体験を元に考えられるようになってきているからであろう。

また、4年次でも教科の専門的な知識・技術の重要性にはほとんど触れられていない。普段は、美術や工芸の専門性の高い教育を受けていることにより、知識・技術の問題は感じないものの、教育実習で初めて「教師」の立場を経験させてもらったことにより、生徒にいかに関え、理解してもらおうかといった点に自らの課題を感じ取っていると思われる。これは、教員養成系ではない大学に共通することなのかもしれない。

今回の分析は、一つの学年の経過を見ることで、教職課程を履修することでの学生の意識の変化を見ているが、1年次での調査はもっと早い時期、教職課程を履修する前に行われる必要があるのかもしれない。また、4年次も、教育実習に行って比較的早い段階での意見であり、その後変化することも考えられる。今後はさらにそのような調査を行い、教師観が育まれる過程を明らかにする必要がある。

(くわむら・さわこ 一般教育等/教育学)

(2016年10月31日 受理)